

「野尻湖人の食」体験

湖畔で住民参加の公園づくり

信濃町の住民有志らの地域づくりグループ「野尻湖と親しむプロジェクト」が本年度から、野尻湖畔の東大寮跡地で町と公園造りに取り組む。住民に参加を促し、三年かけてベンチや周辺の遊歩道を整える計画。十四日は現地で、有害鳥獣として駆除された熊やシカの肉を食べる催しがあり、親子連れら約四十人が旧石器時代の「野尻湖人」の暮らしを体験した。

子どもたちは石器で生の（8）＝柏原小三年＝は「思っ肉を切ることに挑戦。熊肉 たより切れ味が良くて驚いてを細かくした宮崎大地君 た」。くし刺しにして焼いて



現地で植樹や石器使う催し

ほお張り、「味付けしなくてもうまい」と歓声を上げていた。

ほかに、町木のオオヤマザクラ九本を記念に植樹し、水辺には水質浄化に役立つというヨシ二十株を植えた。

プロジェクトは、住民参加のまちづくりを実践しようとする地元野尻区、町観光協会、野尻湖漁協の代表らが集まり昨年十月に発足。週一回の会合を重ね、住民と町の協働による水辺環境や遊歩道の整備を町に提言していた。

寮跡地は約二千七百平方メートルで、町が四月から無料で東大から借りている。本年度の事業費八十八万円の一部に、県の元気づくり支援金三十七万円を充てる。

間瀬一朗代表は「住民が野尻湖に愛着を深め、観光振興にもつながるイベントを企画したい」と話している。

石器を使って野生の熊の肉を切り分ける子どもたち



東北信で支援「但

がんばれ



08 信濃 グランセローズ

BCリーグ信濃グランセローズの運営を支えようと東北

信地方の有志が中心となり十三日、ボランティア組織「S

EROWS ボラ倶楽部」を立ち上げた。当面は同地方で

行う試合を中心に活動するが、今後中南信かつも会員を